

2017

北星学園大学社会福祉学部 地域社会貢献事業

講師派遣のご案内

2017

ご 挨拶

北星学園大学社会福祉学部長

田中 耕一郎

本事業の前身である北星学園大学の社会福祉夏季セミナーは、1968年に始まり2010年に終了するまでのおよそ半世紀間、北海道の社会福祉領域で仕事をされている方々にとっては、「道しるべ」的な存在でありかつ貴重な情報源として、さらには交流の場として大きな役割を果たしてきたと自負しております。

とはいえ、この間日本の社会福祉を巡る情勢は大きく変貌を遂げてきました。社会福祉の現場は、誰にとっても安心して生活を送るための社会資源であり、そこでは実に多様な福祉サービスが提供されております。そうしたなかで、本学の社会福祉学部の多くの卒業生が、北海道の全域はもとより道外の社会福祉現場で活躍していることは、誠に嬉しい限りであり、実に心強く感じます。それだけ多くの方々に支えられて、福祉の仕事ができていることに感謝しているところです。

時代の変化を反映して、社会福祉関係の情報源をはじめ、研修機会も拡大し多様化してきております。これまで北海道の社会福祉領域における人材を供給してきた大学として、本学の卒業生を含めた社会福祉関係者に対して、今後も福祉現場における有用な人材の養成を継続していくことは重要と考えます。それと同時に、社会福祉領域におけるオピニオン・リーダーとして、あるいは現場の皆様の要望にきめ細かく応えてゆく責任もあると考えております。

つきましては、本学の社会貢献事業の一環であり、地域における講演や研修に対する支援を具体的に担う事業として、本学の教員による講師派遣事業を企画し、実施することといたしました。本事業のねらいは、道内各地域における地方公共団体をはじめ、多くの社会福祉関連の事業や活動を展開している諸団体に対して、本学社会福祉学部の教員が自らの専門領域を活かして、講演やワークショップ、グループワーク等による研修活動を支援させていただくことにあります。本事業を必要に応じて積極的にご活用くだされば誠に幸いに存じます。

講師派遣申込方法

1) 申込項目（記載漏れのないようお願いします）

下記①～⑯の項目を明記し、**メール又はFAXにて**お申込みください。

（FAXの場合は、巻末の「講師派遣申込書」（FAX用）に直接ご記入ください。）

- ① 事業所・団体等の名称
- ② 代表者（ふりがなも明記してください）
- ③ 住所
- ④ 担当者の所属課・係・氏名
- ⑤ TEL
- ⑥ FAX
- ⑦ E-mail
- ⑧ 希望講義番号
- ⑨ 希望講師名
- ⑩ 希望講義名
- ⑪ 希望日時（時間も明記してください。1コマ90分です。）
- ⑫ 開催先（会場名）
- ⑬ 開催先（住所）
- ⑭ 事業内容（A～F）を明記してください。
A講演会、B研修会、Cワークショップ、Dスキル学習会
Eケースカンファレンス、Fその他 []
- ⑮ をご用意いただける機材（A～H）を明記してください。
A黒板、Bホワイトボード、Cスクリーン、D PowerPoint
Eプロジェクター（スライド用）、Fビデオ機器、G DVD 機器、H PC
- ⑯ 受講対象者・企画概要・付記事項等

2) 申 込 先

北星学園大学 社会連携課

①メールアドレス：renkei@hokusei.ac.jp

②FAX （011）896-8311

※①、②いずれかでお申し込みください。

3) 募集期間

【第1次】 4月1日～4月10日必着（4月下旬までに10件を抽選）

【第2次】 6月1日～6月10日必着（6月下旬までに5件を抽選）

【第3次】 9月1日～9月10日必着（9月下旬までに3件を抽選）

抽選方式により決定します。募集期間ごとに、1団体1件限りの申し込みとさせていただきます。

4) その他 留意事項

- ① 申し込み多数により抽選を行う際は、原則として「過去3年間に派遣したことの無い団体・機関」を優先します。
- ② 抽選結果は、FAX またはメールにてお知らせします。
- ③ 抽選後、本学担当者が申込み先の担当者の方と打合わせをしたうえで、派遣教員の最終的な日程調整を行います。
- ④ 毎週水曜日午後は、本学の会議等を優先させていただきます。また、職務の都合上、ご希望する日程に添えない場合もございますのでご了承ください。
- ⑤ 派遣に係る費用は、原則として北星学園大学が負担いたします。
- ⑥ 講師紹介の際には「北星学園大学社会福祉学部地域社会貢献事業」であることの告知をお願いします。なお当日、本学の広報誌類を配布する機会をいただければ幸いです。また、終了時に参加者へアンケートを取らせていただいておりますのでご了承ください。
- ⑦ 講義・演習時間は90分を基本としています。
- ⑧ 2017年度は、18件の講師派遣を予定しています。
- ⑨ 第3次募集終了以降も受け入れが可能な場合に限り、申込方法等を大学ホームページでお知らせします。
- ⑩ 選考に漏れ、依頼機関・団体の費用負担で派遣を希望される場合は、別途ご相談ください。

問合せ・申込み先

北星学園大学 社会連携課

〒004-8631

札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

TEL (011) 891-2731 (代表)

FAX (011) 896-8311 (直通)

メールアドレス: renkei@hokusei.ac.jp

講義概要一覧

1

演習形式：日本の医療制度の実態と改革の方向について考える

安部 雅仁 (福祉計画学科 教授)

医療は、主に外来医療、入院医療および薬剤医療の3つによって成り立っており、それぞれにおいて一定の費用が使われます。その費用は、保険料、租税（公費）および患者自己負担によって賄われます。

わが国では、1961（昭和36）年に「国民皆保険」が制定されました。これが広く定着する中で「受診機会の平等」が基本的には保証され、長寿社会や長い健康寿命および低い乳児死亡率といった点で一定の成果も得られています（他の国に比べて、たいへん高く評価されています）。一方、医療費が増加する中で医療保険財政の赤字が拡大し、これが制度の持続（可能）性を低下させる要因にもなっています。

この講義では、主に外来、入院および薬剤の各医療の制度と実態を整理して、今後の医療制度改革の方向について、少子高齢化と経済・財政の動向を踏まえながら考えていきます。

2

社会福祉関係英語表現

ジェームズ E. アリソン (共通科目部門 教授)

社会福祉関係の英語表現を紹介していきます。ニュース放送、ウェブサイト、宣伝、書物（例えば聖書、小説、伝記）、音楽等に出てくる実例を用いながら様々な熟語、ことわざ等の背景、意味、そして使い方を学びます。

3

社会福祉実習におけるスーパービジョン

－新人教育への応用も含めて－

伊藤 新一郎 (福祉計画学科 准教授)

実習指導における要として実習生へのスーパービジョンがあげられます。実習指導者からすれば、実習生への指導方法・内容等で悩む場合もあります。本テーマでは、日々の振り返り方法、日誌へのコメント、ケース研究への助言、指導上の課題を有する学生への対応等を素材としながら、実習生へのスーパービジョンについて取り上げます。なお、このテーマは、新人職員の育成・指導にも応用可能な内容です。実施形態は、講義・演習・事例検討その他の方法から要望に沿って対応します。

4

地域共生社会の構築に向けた社会福祉（実践）の課題と展望

伊藤 新一郎 (福祉計画学科 准教授)

現在、社会福祉を取り巻く最も重要なキーワードの1つとして「地域包括ケア」があげられます。その延長線上として、今日では「地域共生社会の構築」が社会福祉政策の目指すメガトレンドになっています。本テーマでは、現在進められている国の施策展開のポイントを踏まえながら、社会福祉領域において求められている内容について、制度と実践の両方を踏まえて考えていきます。実施形態は、講義・演習・事例検討その他の方法から要望に沿って対応します。

5

電話相談について

今川 民雄 (共通科目部門 教授)

現在では、多様な電話相談が実施されている。電話相談によって何を指すかに応じて、対応が異なるが、基本はまずかけ手の話を聞くことから始まります。電話等道具を用いる特殊性を踏まえ、電話相談全般について講義を行います。

6

ワークショップ：傾聴の姿勢を身に着けるための研修

今川 民雄 (共通科目部門 教授)

人の話をじっくりと聴くことは、簡単なようで案外難しいものです。また、聴くということは、知識を持っているだけではできません。実際に練習してみることが不可欠です。ロール・プレイなどを実施することによって、傾聴について学びます。なお、この研修は展開上 120 分で行います。

7

地域の支援計画に基づいた地域福祉活動（小地域ネットワーク活動）等の仕掛けの作り方（グループワーク）

岡田 直人 (福祉計画学科 教授)

ここでは、グループワークを通じて、その地域に応じた地域福祉の仕掛けづくりに取り組んでもらう。今日、介護保険における居宅サービス提供において、ケアマネジャーのケアプランがなければ、確実に実施することは難しい。しかし、地域福祉では、地域福祉計画や地域福祉実践計画はあっても、その理念の具体化につまずいている。そこで、ケアプランにならない、地域の支援計画を作成して、目的・ニーズ・目標・実施内容等を明確にした地域福祉の仕掛けをつくり、確実に仕掛けが動く方法について学んでもらう。

8

防災を求心力とした地域社会の現実的なネットワーク化の提案

岡田 直人 (福祉計画学科 教授)

昨今、地域社会では、高齢者等の孤立死、過疎化による衰退、担い手の高齢化が進んでいる。多くの者が、何とかしなければと感じているが、具体的にはアクションが少なく、地域社会を取り巻く環境は悪化の一途である。そんななか、地域社会にあるものを使って、仕掛けをつくって繋げるだけで、関係者が楽になり、取り組みが面白いと思える取り組みを提案したい。その際には、自然災害等に対する防災・減災を求心力として、地域住民や福祉専門職に働きかけ、すでにある仕組みを生かした現実的な地域社会のネットワーク化を提案したい。

9

今後の地域福祉のあり方—全国の先進地域から学ぶ—

岡田 直人 (福祉計画学科 教授)

2015年度から生活困窮者自立支援法の施行と第6期介護保険事業計画が実施された。両者は縦割り行政として異なる施策だが、対象は地域社会の住民のなかにおり共通する。また、生活困窮者と要援護高齢者のどちらにも当てはまる者がいるはずである。つまり、地域福祉として考え、取り組んでいくなれば、両者を区別せず、地域社会で生活を送る上で福祉ニーズをもった者として、生活の全体性や対象者の主体性を意識した支援を行う必要がある。そこで、全国の先進地域の取り組みを紹介しながら、今後の地域福祉のあり方について提案したい。

10

人と人が結びつき盛り上がっているある連合町内会の仕掛け

～一人ではできないから、協力者を増やす要諦とは～

岡田 直人 (福祉計画学科 教授)

一人の行動から、10年をかけ、高校生などの若者や子育て世帯も連合町内会のイベントに参加するようになった連合町内会。できるところ、気になるところから始め、活動の「見える化」で地域住民の共感・賛同を広げ、人が集まり盛り上がっている連合町内会のシンプルな取り組み、新たな担い手の発掘のポイントを紹介いたします。

11

ふれあいサロン活動の進め方 ～継続と活性化に向けて～

岡田 直人 (福祉計画学科 教授)

市町村社会福祉協議会では、「ふれあいサロン」事業を行っているが、サロンの運営者からは「新規参加者が増えない」「いつも同じ人ばかり参加している」「誘っても来ない人がいる」「今は協力者がいるが、自分が引退した後の後継者がいるか不安」「活動内容がマンネリ化」しているなど、悩みや相談が多いことだろう。また、サロン活動の意義や効果を改めて運営者や参加者に再確認が必要と感じているところもあるだろう。そこで、講義では、各市町村のサロン事業要綱に沿いながら、サロンの概要をおさらいしつつ、新たな参加者、担い手の掘り起こしと専門職と連携した取り組みのヒントを紹介したい。

12

地域の支え合い活動への新たな住民ボランティアの参加に向けて

～地域共生社会“我が事・丸ごと”の関連で～ 岡田 直人 (福祉計画学科 教授)

厚生労働省地域共生社会実現本部が「我が事・丸ごと」を打ち出した。介護保険制度においても新しい総合事業としてこれまで以上に地域住民の参画を求めてきている。しかし、単に新たな担い手の発掘にとどまらず、地域づくりなど地域全体の活性化に波及する問題を有している地域もある。そこで、“我が事・丸ごと”の地域共生社会での議論を踏まえながら、新たな担い手が参加したくなるような仕掛け、ひいては地域活性化につながるような仕掛けづくりについて提案したい。

13

カンファレンス –子ども虐待をめぐる–

栗山 隆 (福祉臨床学科 教授)

子どもに関する虐待事例の対応例を取り上げ、児童虐待防止の為に早期発見、早期予防等をめぐって、各施設・機関等がどのような働きかけが可能なのかを話し合い、対応方法について参加者で検討を行います。

14

演習：基本的なコミュニケーションと傾聴

栗山 隆 (福祉臨床学科 教授)

相談業務を行う上で必要となる、基本的なコミュニケーションと傾聴技法について、基本的な用語の理解をしながら、参加者同士で演習を通して学びます。

15

演習：対人援助の基礎・自他の価値観

栗山 隆 (福祉臨床学科 教授)

相談援助を行う上で必要となる、自他の価値観について、参加者間で「ある物語」を読み解きながら、グループワーク演習を通してその基本的な有り様を学びます。

16

わが国における社会福祉理論の歴史と展望

佐橋 克彦 (福祉計画学科 教授)

戦前期の大河内流社会政策に始まり、わが国の社会福祉はどのように学問的に位置づけられてきたかについて、代表的な論者の社会福祉理論を紹介しつつ、現代におけるその意義を考察し、その展望を明らかにします。

17

地域包括ケアとまちづくり

杉岡 直人 (福祉計画学科 教授)

これからのまちづくりを考える上で、安心して暮らせる条件を整える取り組みが地域包括ケアシステムとして取り上げられています。この地域包括ケアの考え方とまちづくりの関係について参加者とともに考えます。とくにNPOの役割に注目して事例を紹介しながらアイデアを引き出せるようにします。

18

地産地消文化を推進するためのコミュニティレストラン

杉岡 直人 (福祉計画学科 教授)

地域に生活するメンバーが助け合い、支えあう仕組みを、食をつなぎ役として考える北海道らしい取り組みを、各地の事例を紹介しながら提案します。地域の活性化は、無理なく雇用を実現する仕組みにこだわらないと定着も持続も難しいといえます。

19

発達障害（がい）の理解と支援

田実 潔 (共通科目部門 教授)

発達障害（がい）は、加齢に伴ってその生きづらさも変化していきます。特に青年期以降になって生きづらさが浮き彫りになるケースもありますが、周囲の理解がとても助けになります。知っておいて頂きたい発達障害（がい）について解説します。

20

**障害者運動は何を訴えてきたのか
—日本とイギリスの障害者運動史から—**

田中 耕一郎 (福祉臨床学科 教授)

障害者の人権を社会に訴え続けてきた障害者運動の歴史において、障害者たちがどのような文脈で、どのような抑圧や差別に抵抗し、そして、何を訴えてきたのか、などの点を振り返りながら、そこに社会や人間に関するどのような新しい価値や思想を見出すことができるのか、について考えたいと思います。

21

ソーシャルワーク実践理論の動向

中村 和彦 (福祉臨床学科 教授)

多様な課題を抱えた人々へのソーシャルワーク実践を展開する際、「理論」や「モデル」は不可欠なものです。レジリエンスへの着目など最新動向も踏まえ、実践理論について考えていきます。

22

事例検討：ソーシャルワーク実践のポイントを振り返る

中村 和彦 (福祉臨床学科 教授)

ソーシャルワーカーにとって、「事例」から学ぶことの意義は、いくら強調してもしすぎることはありません。提出いただいた「事例」を検討することを通して、ソーシャルワークにとって外すことができないポイントを振り返ります。

23

「利用者の自己決定」からソーシャルワークを考える

中村 和彦 (福祉臨床学科 教授)

ソーシャルワーク実践展開において「利用者の自己決定」は、極めて重要な価値であり、方法概念でもあります。一方で、時にこの問題は、ソーシャルワーカーを悩ませます。「自己決定」をめぐる問題から、ソーシャルワークを改めて考えます。

24

利用者・家族からの支援に対する要求や苦情

中村 和彦 (福祉臨床学科 教授)

実践において、利用者・家族からの要求や苦情への対応に、頭を悩ませることは少なくありません。一方で、支援のあり方を再検討する重要な機会となることも間違いありません。特に「初期対応」のあり方について考えます。

25

コンピュータ支援ツールを活用した生活の包括・統合的理解

中村 和彦 (福祉臨床学科 教授)

利用者の「生活世界」を把握・理解できなければ、ソーシャルワーク実践は、忽ち袋小路に迷い込んでしまいます。生活の包括・統合的理解を手助けすることを目的に開発された支援ツールをご紹介します。

26

『すべて女性が輝く社会』政策を問う

K. U. ネンシュティール (福祉計画学科 教授)

この政策には「女性が、自らの希望を実現して輝くことにより、わが国最大の潜在力である『女性の力』が十分に発揮され」と記されています。この政策目標を女性が生きる現実から検討したいと思います。

27

『男子は女子より頭が良いですか』という問い

K. U. ネンシュティール (福祉計画学科 教授)

幸いなことに、こういった質問に対して違和感を感じる人が少なくありません。しかし、国際比較の学力テストは日本で男子が女子よりもはるかに高いレベルを示しました。この結果の背景にある状況を明らかにしたいと思います。

数年前から「幸福」に関する関心が高まりました。国際比較の調査データによれば、ある経済的に貧しい国の人々が最も「幸福」ということです。確かに、お金があればあるほど幸福だということではありませんが、貧困が広がる中でこういった幸福論は何を意味するのでしょうか。幸福論が注目される背景と「幸福」とは何か、を検討します。

虐待が起こっている親子にはどのようなことが起こっているのでしょうか。虐待と「しつけ」はどう違うのでしょうか。虐待を受けたことによって心に傷を負い、混乱のために潜在的な力を発揮できず、生きる力を失っている子どもたちの心理治療の経験をもとに、虐待を受けた子どもの心理を講義します (児童虐待に関わる方だけでなく、ひろく子どもに関わる方にも聞いていただきたいと思います)。

子育てに大きな悩みを抱えた親御さんたちの相談はつきません。臨床心理の立場で相談活動を行っている経験から、「子どもがその持てる力をどのようにしたら開花できるようになるのか」、「どのような状況がそれを阻んでしまうのか」など乳幼児期の子どもに大切なことは何かについて考えたいと思います (専門家、一般向け)。

日本社会における代表的な偏見・差別問題を通して、人権の重要性について考えていきます。主な偏見・差別問題としては、アイヌ差別、ハンセン病差別、水俣病差別等を予定しています。

FAX 011-896-8311

申込日 201 年 月 日

※メールで申込みの際は下記項目①～⑯を明記の上、renkei@hokusei.ac.jpまで送信してください。

講師派遣申込書(FAX用)

北星学園大学社会福祉学部長 殿

下記により 2017年度 社会福祉学部地域社会貢献事業の講師派遣を希望します。

①事業所・団体等の名称：
②代表者（ふりがな）：
③住所：
④担当者の所属課・係・氏名：
⑤TEL：（ ） -
⑥FAX：（ ） -
⑦E-mail：

⑧希望講義番号：		⑨希望講師名：	
⑩希望講義名：			
⑪希望日：201 年 月 日（ ） 時 分 ～ 時 分まで（1コマ90分）			
⑫開催先（会場名）：			
⑬開催先（住所）：			
⑭事業内容に○をつけてください。		①講演会 ②研修会 ③ワークショップ ④スキル学習会 ⑤ケースカンファレンス ⑥その他（ ）	
⑮ご用意いただける機材に○をつけてください。		①黒板 ②ホワイトボード ③スクリーン ④ PowerPoint ⑤プロジェクター（スライド用） ⑥ビデオ機器 ⑦ DVD機器 ⑧ PC	
⑯受講対象者・企画概要・付記事項等			

※大学記入欄

受付日：					備考
学部長			課長	受付	

ミシン線から切り離してご使用ください。

問合せ・申込み先

北星学園大学 社会連携課

〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

TEL (011)891-2731 (代表)

FAX (011)896-8311 (直通)

メールアドレス: renkei@hokusei.ac.jp

案内図

